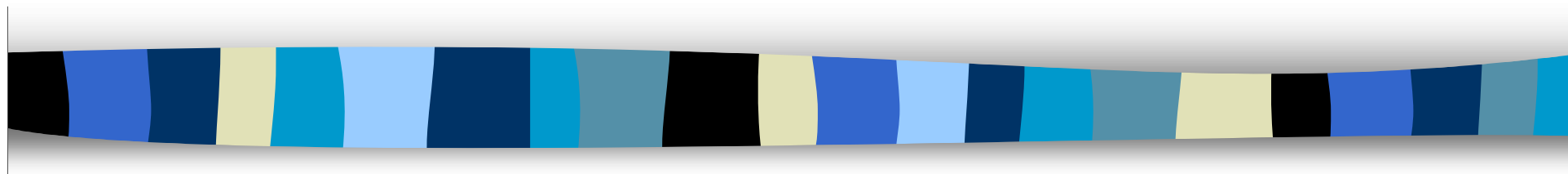
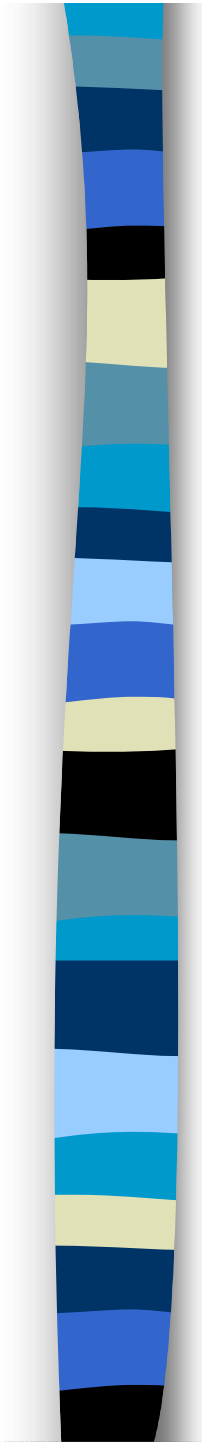


「2008世界難民の日 全国リレー」



大阪集会

2008年7月6日



難民とは何 か？

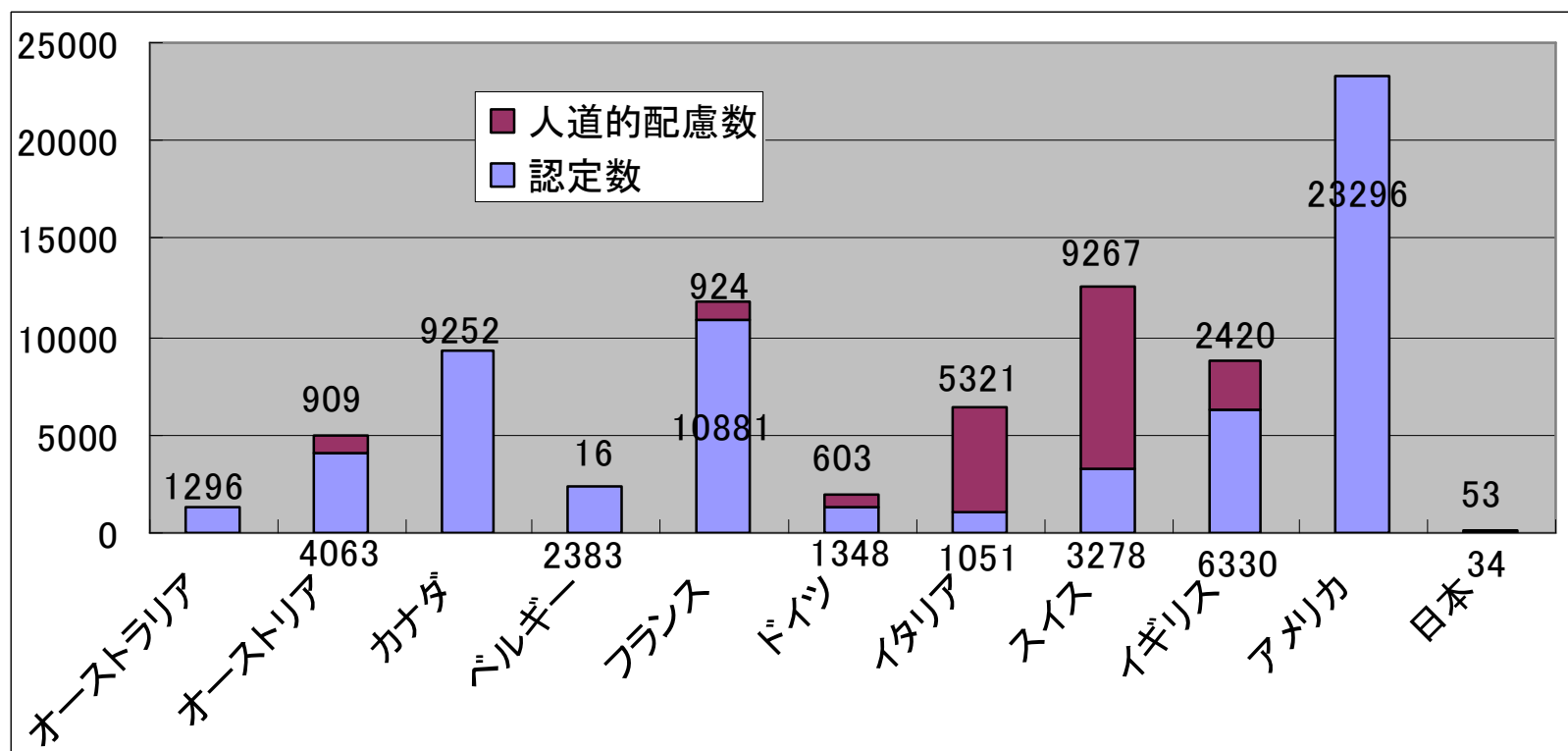
人種・宗教・国籍もしくは特定の社会的
集団の構成員であること、または政治
的意見を理由に迫害を受けるか、その
恐れがあるため国外にあり、国籍国の
保護を受けられない者、またはそれを
望まない者 （難民条約第1条）

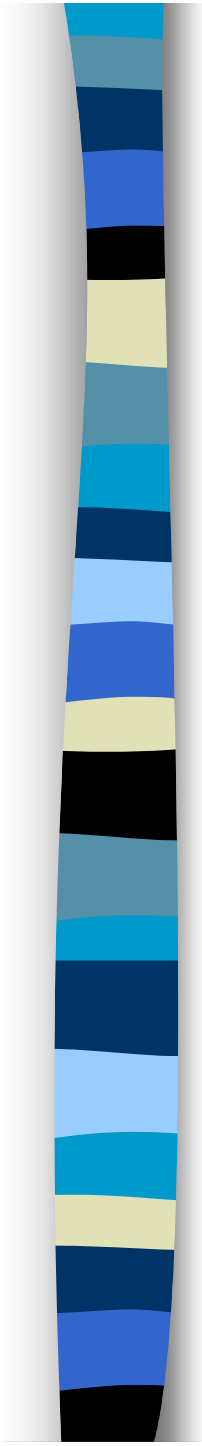
1951年7月28日に採択

■「難民及び無国籍者に関する国際連合全権会議」に
おいて、『**難民条約**』が採択された。

1981年に日本は加盟

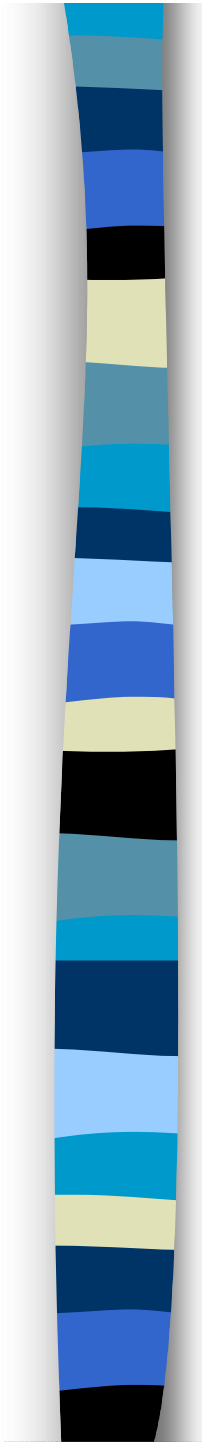
主要国の難民認定数など (2006年UNHCR資料より作成)





日本の難民受け入れは最下位

- 対GDP比（経済力） 136位
 - 対人口比 125位
 - 対国土面積比 90位
 - （2001年UNHCR資料より）
- 主要150カ国と比較



日本の難民受け入れの歴史

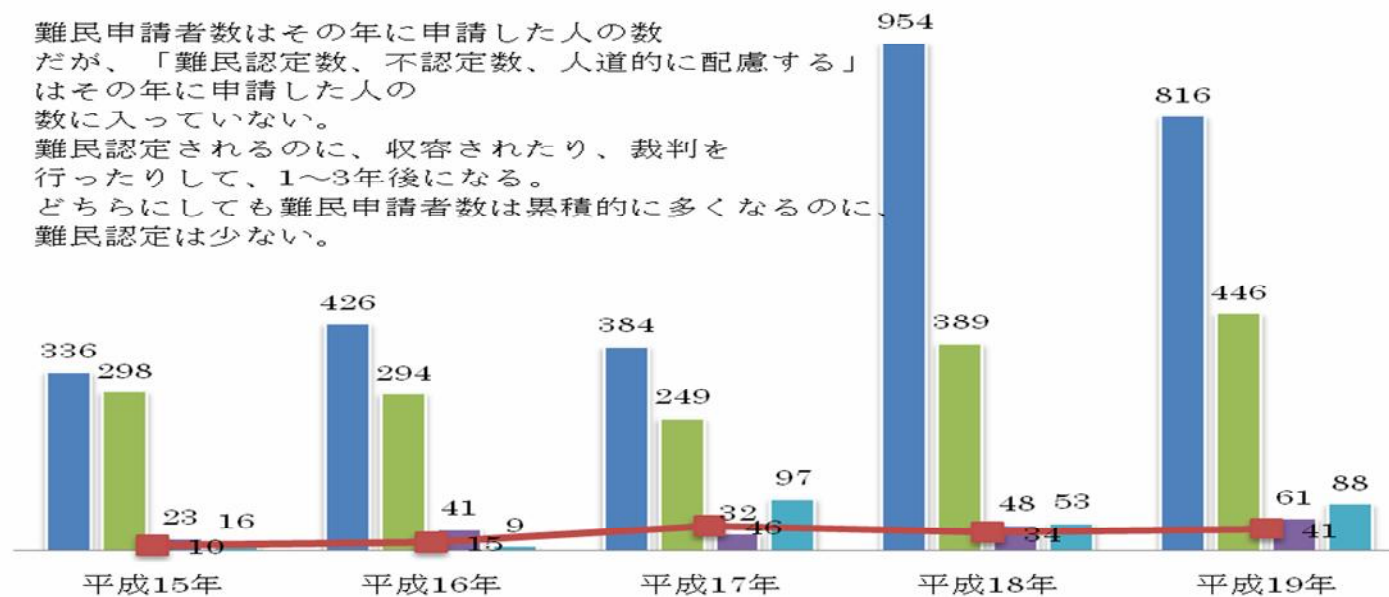
- 1976年：インドシナ難民11,000人の受け入れ開始
■ (2006年で終結)
- 1981年：難民条約の加入
- 1990年後半から：難民申請者が増え始める
- 1998年：国連人権小委員会から 日本の人権について勧告
- 2007年：拷問等禁止条約で難民の収容と送還について勧告
■ (1年後に日本の報告書の再提出要請)
- 2008年：改正入管・難民認定法の見直しの年

近年の難民認定数など

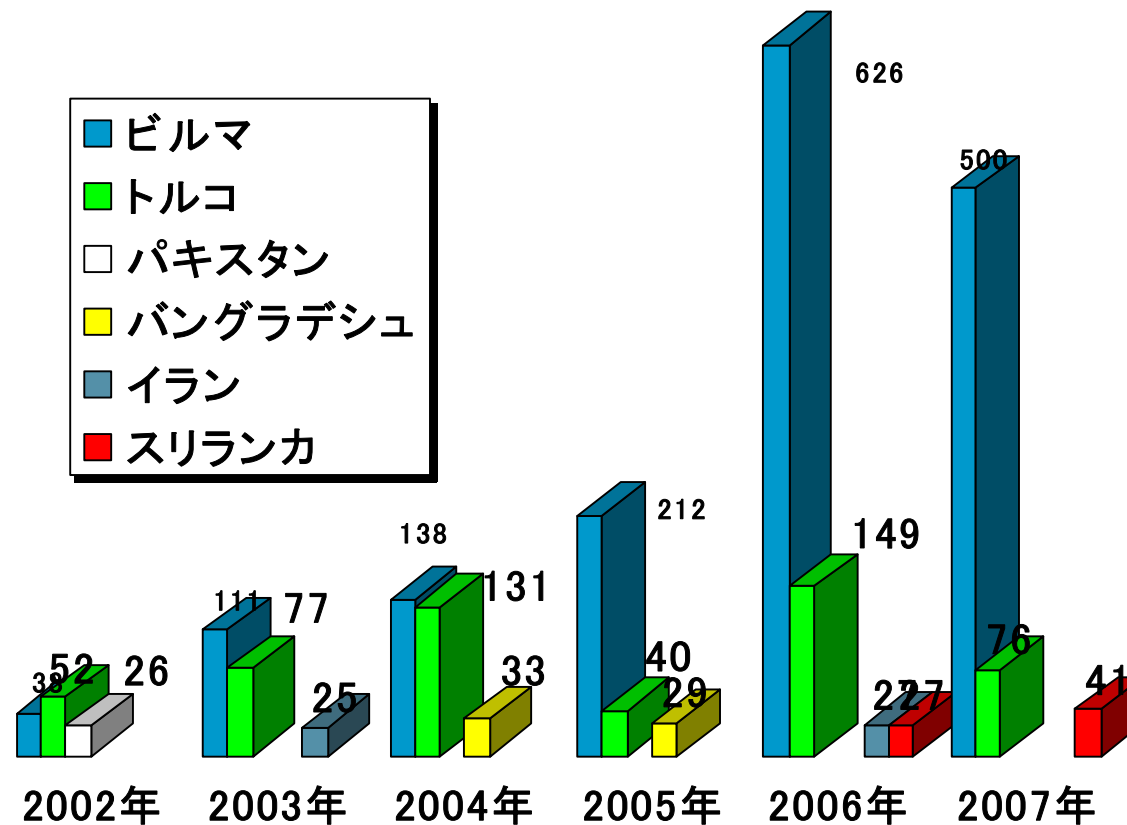
難民認定数申請及び処理数の推移
(過去5年間)

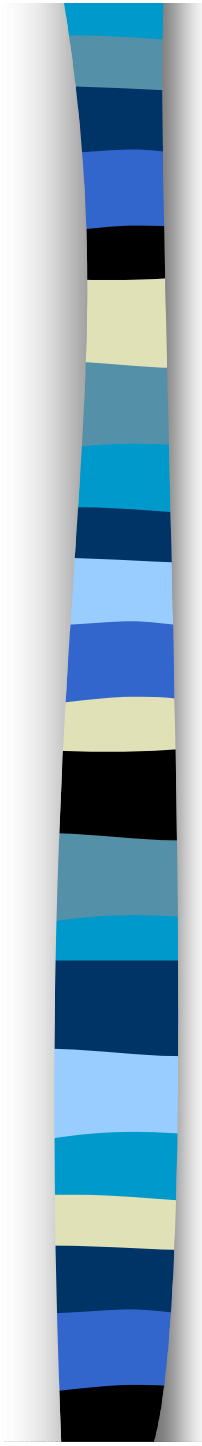
■申請数 ■不認定数 ■取り下げ数 ■人道的配慮による ■認定数

難民申請者数はその年に申請した人の数だが、「難民認定数、不認定数、人道的に配慮する」はその年に申請した人の数に入っていない。
難民認定されるのに、収容されたり、裁判を行ったりして、1～3年後になる。
どちらにしても難民申請者数は累積的に多くなるのに、難民認定は少ない。



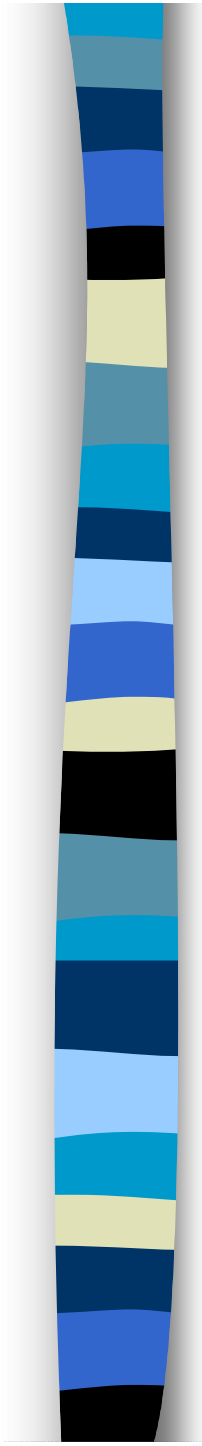
近年の難民申請者の出身国





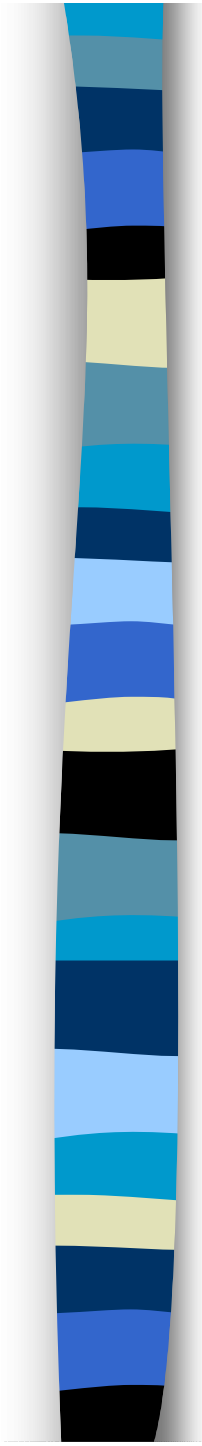
日本に庇護を求めた難民たち

- 難民認定制度が設けられた1982年から2005年までの難民申請者数の総計は3928人、
- 難民として認められた人数の総計は376人
- (異議申出により許可された32人を含む)です。また難民として認められなくても、特別に滞在を許可された人の総計は381人です。
- 2007年を見ると、申請者816人に対し、認定者は41人です。(件数ではわずか25件)
- ことしはすでにビルマ人だけで1000人以上が難民申請。



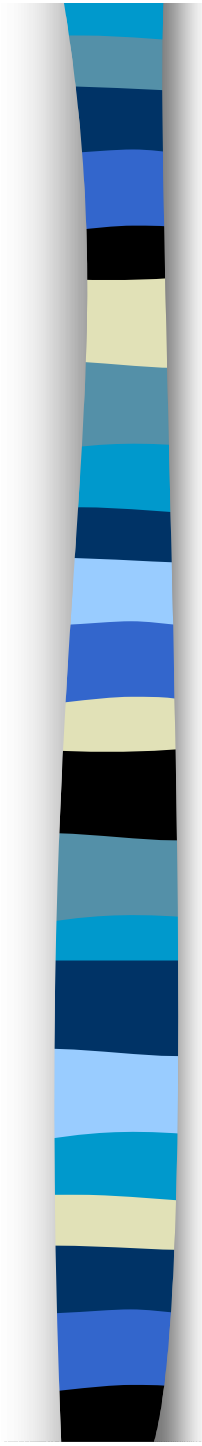
2004年法改正しても救済されない難民たち

- 2004年：入管・難民法の改正
 - （付帯決議で3年後の見直し）
- 60日ルールの撤廃
- 難民審査参与員制度の導入
 - 参与員制度で救済された難民はわずか
 - 認定率は上がっていない
- 仮滞在制度の導入
 - 2006年8月からほとんど仮滞在はいない
- 情報公開の進展（不認定理由の開示）
 - 数行しかかかれていない決定書



日本の難民認定の問題点

- A難民認定基準の偏り
- B参与委員制度の欠陥
（中立性、公平性の欠如）
- C立証の機会を奪う難民申請者の収容
- D入管の判断に追従するだけの裁判所
-



拷問等禁止委員会からの勧告 2007年5月

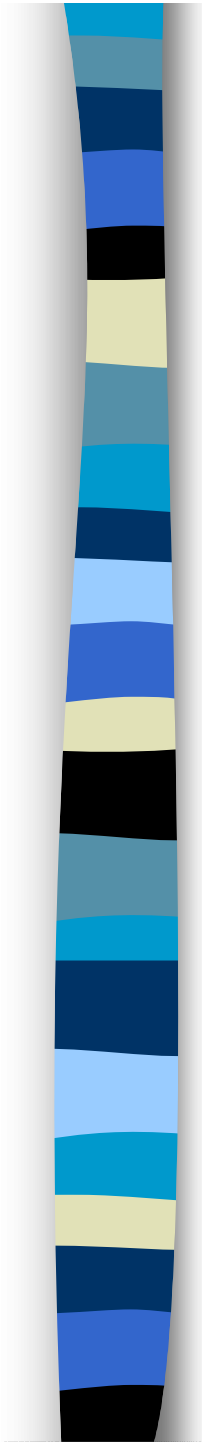
- ノン・ルフールマン(難民の送還禁止)原則の国内法における明確な保障の欠如
- 難民認定の再審査をする独立した機関の欠如
- 法的救済手段の不十分さ
- 入管施設内での不十分な医療措置 etc.
→改善するよう勧告

さらに・・・

一年以内に、第3条に関する追加情報を政府に要求

2007年は難民の収容大国日本 をテーマに集会

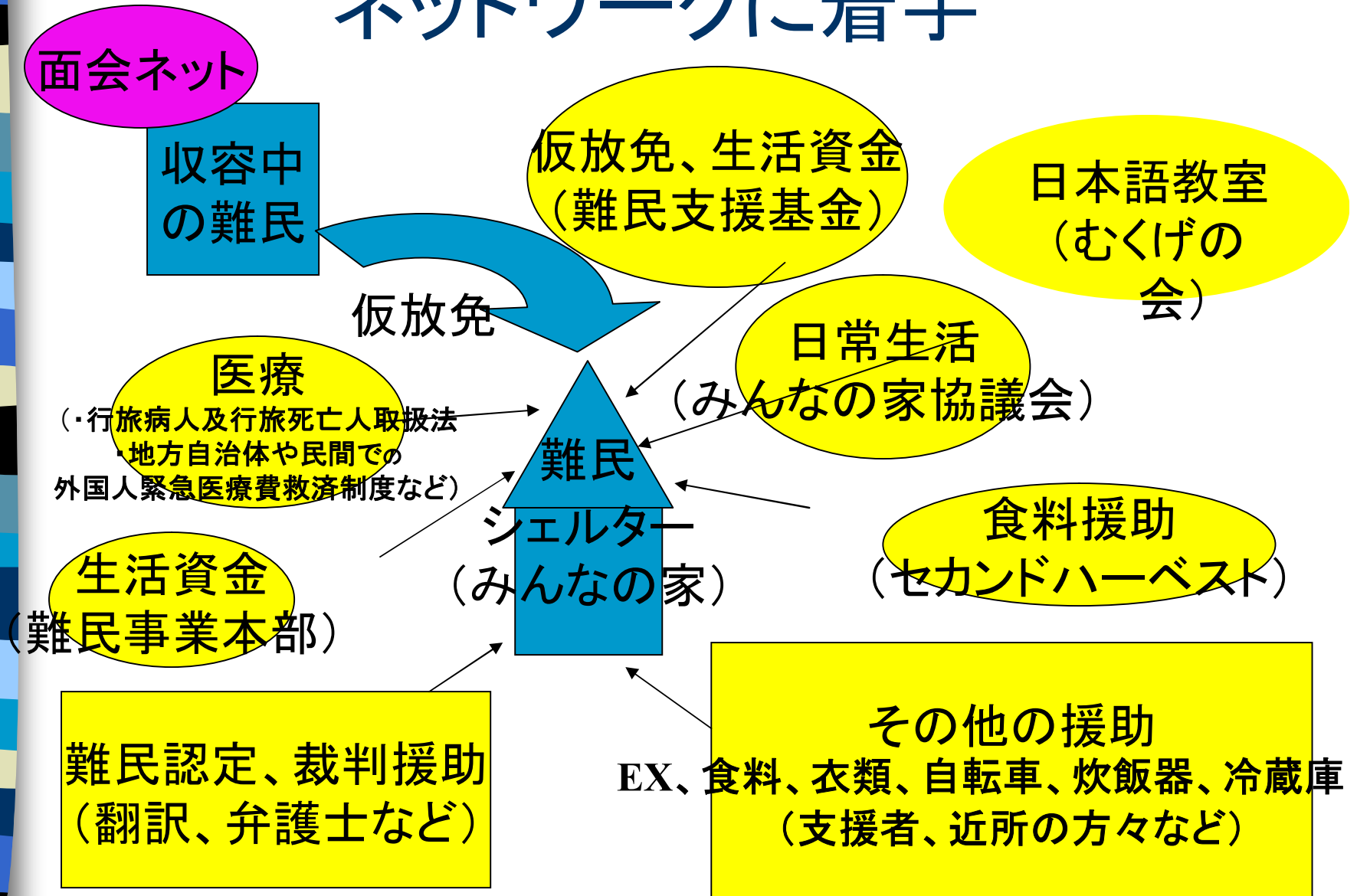


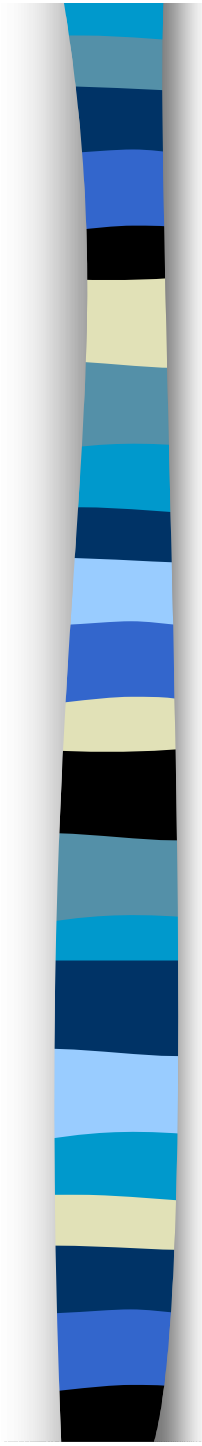


2007年は難民の収容大国日本をテーマに集会

- 2007年5月にビルマだけで約140人が収容。
- その後(2007年秋から)難民申請者が大量に仮放免。(ビルマ難民で長期収容者はいない)
- しかし、認定はされず仮放免が8年に及ぶ難民も。
- 在留資格がなく、就労権もない難民申請者が日本社会に放りだされ貧困の底辺になって行く。

市民の連携で難民をささえる ネットワークに着手

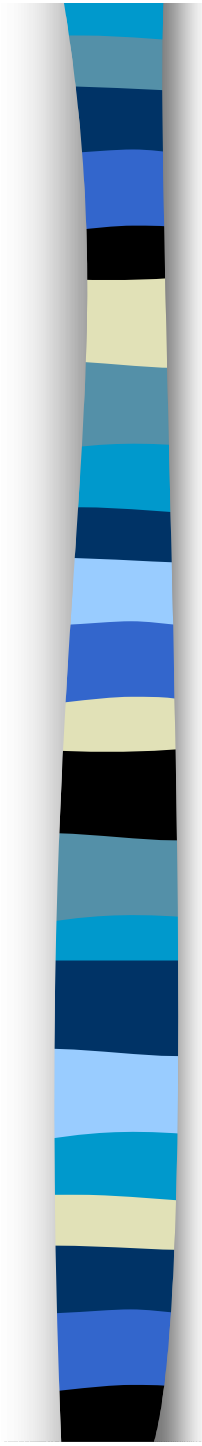




移民や難民受け入れの議論の高まり。

- 2008年6月12日に自民党のPJが1000万人の移民受け入れ案を提出。
- 人道的配慮が必要な人として1000人の受け入れ。

そのための法制度や市民の意識改革も盛り込まれている。



血の通った難民認定制度に * * * 私たちの提言 * * *

- 1. 難民認定、人道ビザ付与にはUNHCRの見解を尊重すること。
- 2. 難民申請制度の告知なしの入管手続きをすべて無効にすること。
- 3. 難民調査に弁護士・専門家の同席・ビデオ録画をとること。
- 4. 仮放免後の生存権を保障するシェルター、就労権を保障すること。
- 5. 参与員審査内容を検証する専門家委員会を設置すること。